

兵庫県立大学 × ちほめん 共催企画

大学で財務専門官の業務を出前講義

企画の端緒と目的

- 令和2年3月に、当所が地方創生に関する連携協定を締結した兵庫県立大学より、財政や金融などの業務を担う財務専門官の魅力を学生に講義して欲しいとの要望を頂いたことが発端。
- そこで、学生に対して財務専門官の財政、国有財産、金融に関する業務に加え、ちほめん活動などを幅広く講義することで、財務専門官の業務内容は勿論、学生の「地方創生」や「地域貢献」に対する理解を深め、連携協定が定める、地域社会の発展に寄与できる人材育成を図ることを目的とするもの。

講義概要

- 講義名 後期・経営学特講(担当 井上定子先生)
- 日時 令和2年10月28日(水) 13:00~14:30
- 対象 経営学部(3,4回生) 67名
- 講師 神戸財務事務所 総務課
井ノ本幹企画係長、芦田怜事務官(ちほめん)
- 備考 コロナ禍の状況を踏まえ、講義はWeb会議システムWebexを活用したオンライン形式で実施し、神戸財務事務所の職員は職場から、学生は自宅から講義に参加。



兵庫県立大学 井上先生



神戸財務事務所



兵庫県立大学 学生

講義に向けて

- 講義内容については、「**地域貢献**」をキーワードに、ちほめんによる地方創生の具体的な取り組みや国有財産の有効活用の事例を講義することで、地域において財務局が果たす役割を説明することとした。
- また、本講義は、企業会計を始めとした経営学を学ぶものであり、講義のレベルについては、井上先生と協議しながら、金融機関の監督業務や同業務と企業会計との関わりなどを講義することにした。

講義の流れ

- ・財務専門官の業務概要
- ・ちほめんによる地方創生の取り組み
- ・金融機関の監督業務
- ・国有財産の有効活用
- ・質疑応答

地方創生の取り組み

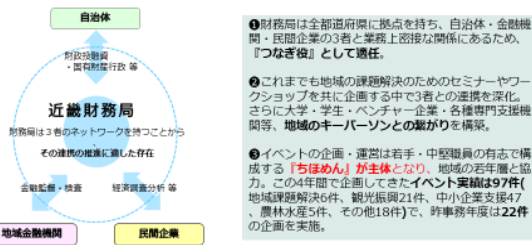


井ノ本企画係長

財務専門官の業務概要を説明した後、井ノ本企画係長から近畿財務局における地方創生の取り組み、**ちほめんである若手職員が主体となって、近畿財務局のネットワークを活用し、「つなぎ役」として地域の課題を解決するイベントなどを企画し、地域貢献の使命を果たしていることを講義。**

近畿財務局における地方創生業務

近畿財務局では、その使命である「地域貢献」を果たすべく、地域の課題解決につながる支援ができないか考え、財務局の業務である、財政・国有財産（自治体）、金融監督・検査（金融機関）、経済調査（企業・経済団体）で培ったネットワークから地域の課題（ニーズ）を汲み取り、課題解決型イベントを企画・実施。



- ①財務局は全都道府県に拠点を持ち、自治体・金融機関・民間企業の3者と業務上密接な関係にあるため、「つなぎ役」として適任。
- ②これまで地域の課題解決のためのセミナーやワークショップを共に企画する中で3者との連携を深化。さらに大学・学生・ベンチャー企業・各種専門支援機関等、地域のキーパーソンとの繋がりを構築。
- ③イベントの企画・運営は若手・中堅職員の有志で構成する「ちほめん」が主体となり、地域の若年層と協働。この4年間で企画してきた**イベント実績は97件**（地域課題解決6件、観光振興21件、中小企業支援47件、農林水産5件、その他18件）で、許事務年度は**22件**の企画を実施。

近畿財務局における地方創生業務

ちほめんPLUSの再発進
て、ちほめんを再発進のうえ、平成30年3月、ちほめんPLUSとして新たに結成！103名まで増加、入れ替わった新規メンバーで多様性ある企画を立案。働き方改革支援企画へのチャレンジなど、持ち味を活かした主体性ある取組のほか、数々ならではの府県を超えた広域連携を促す企画へ挑戦。

<p>概要 地方創生を加速して支援するためには、若手中間職員が主体的に活動できる体制が必要。</p> <p>平成28年6月に登録制のちほめんを結成、興味を持つ企画ごと、自由に参加できる体制を構築。</p> <p>30年7月に再公開を実施。より高いやる気と主体性をもって様々な企画にチャレンジできるよう、「ちほめんPLUS」として新たに結成。</p> <p>→ 新規メンバーが7%を占め、新規代わり進む。 → 前年実績が伸び、多様な企画に挑戦できる！ → 女性メンバー比率が60%を超え、前年度に追随。 → 働き方改革支援企画、女性起業家育成支援など女性目線の企画にも取り組みを発揮！ → 新規メンバーが60%を占め、活動の広がりや貢献。 → 地域の特性を活かした企画が可能。より結果の一体感が醸成される体制に発展！</p>	<p>取組の成果</p> <p>企画費削減による掲載とメンバー募集 ・ちほめんが発案する企画は全て企画費に上りず。 ・即時インターネットでメンバーを募集し、チーム単位で自主運営。</p> <p>課題のための院内ワークショップ開催 ・企画をより効果的なイベントにするためのアイデア出しをワークショップを院内で開催。 ・地方公共団体や金融機関へ依頼を誘う広域連携を促す企画に挑戦！</p> <p>取組の成果が「ちほめんNEWS」として発信 ・イベントのイベントや経路を紹介、ホームページで広く情報発信。 ・口コミで情報伝達。新たな地域からの要請の増加みやネットワークの形成にも寄与。</p>
--	---

具体事例の紹介

神戸財務事務所で企画した具体的な事例、「**県内就職率向上イベント**」、「**金融機関向け知財ワークショップ**」を用いて企画の経緯や内容を学生に説明。

県内就職率向上イベント

兵庫県立大学との共催企画。兵庫県内の企業の魅力を学生に伝えるため、地元で活躍する企業の担当者を招聘し、自社の業務内容や地元への貢献を通じた仕事のやりがいなどを学生に説明した後、意見交換を実施する企画。

ちほめんNEWS
兵庫県立大学 × ちほめん 共催企画
～県内就職率向上のための企画をWEBで実施～

■はじめに
兵庫県では、若者の県外への転出。とりわけ県内就職率の低下が重要課題の一つであるため、兵庫県立大学と連携し、県内の魅力ある企業と大学生をマッチングさせる企画「双方向的雇用促進支援活動「TRY!」」を平成30年度より継続して開催してきました。今年度も引き続き開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響によりイベントの開催が先延ばしされました。しかし、兵庫県立大学の働きはより、双面的イベントではなく、Zoomを活用したオンライン形式による「**県内就職支援活動「TRY!」**」を開催しました。

■企画の概要
兵庫県内の企業の魅力を学生に伝えるため、地元企業職人である**近畿信用金庫**と「**業界スーパード**」を全国に展開する**株式会社神戸労働局**の協力を得て、兵庫県立大学井ノ本先生のファシリテートの下、自社の業務内容や地元への貢献を通じた仕事のやりがいなどを説明した後、企業職人と学生の意見交換を実施。また、コロナ禍の影響を踏まえて、対面ではなく、Web会議システムZoomを活用し、**学生は自宅からオンラインで参加**。

■企画の歩み
この企画は、兵庫県立大学吉田准教授から「県内就職率の低下が課題だ」との話を聞いてスタートしたもので、好評を得られたため継続して実施し、今回で第3回目の開催を迎えました。
●第1回（01.1.21）
<http://kinki-net.go.jp/content/00022798.pdf>
●第2回（02.1.20、02.2.3）
<http://kinki-net.go.jp/content/00026393.pdf>

【兵庫県立大学 井ノ本先生】 【講師プロフィール】
人事労務でキャリアコンサルタントとして求職者支援に従事。再就職支援、社内初の経営管理職。その後独立。
現在は、女性のキャリア支援、大学でのキャリア講座の講師に従事。

企画のポイント
①兵庫県立大学と連携し、兵庫県の課題である「就職による学生の県外流出」への対策を検討する継続企画。
②コロナ禍の影響を踏まえ、学生と対面でのイベントは避け、**Zoomを活用したオンライン形式による企画を実施**。

金融機関向け知財ワークショップ

(一社)発明推進協会や近畿経済産業局との共催企画。管内金融機関を対象に、知的財産をテーマとしたワークショップを開催し、知的財産について考える機会を提供する企画。

ちほめんNEWS
～金融機関向け知財ワークショップを開催！～

■きっかけ
今回の企画は、神戸財務事務所が日債金協会に関して意見交換を行っている兵庫県中小企業団体中央会から、「(一社)発明推進協会を招いてほしい」との依頼があった。

■はじめに
昨今、経済のグローバル化や消費者ニーズの多様化により、知的財産の活用、大企業と中小企業間においても、競争優位性の確保や新商品の開発に重要な役割を果たしています。
また、この際、近畿財政局において知財創出を推進する金融機関向けワークショップの開催が期待される。中小企業支援のために行うことができる「1社1命」をテーマとした「知財」をテーマとしたワークショップを開催することになりました。

■企画の内容
第一期は、(第1)工業所有権特許・特許庁近畿経済本部を講師(ファシリテーター)として、知財に関連したビジネス展開について、ケーススタディで検討するもの。
第二期は、近畿経済産業局が実施する知財ビジネスマッチング事業の受託企業を講師(ファシリテーター)として、個別の開放特許をテーマに、自由に新商品のアイデアを出し合うものです。
また、本企画は、金融機関が事業性評価を実施するための協力向上につながるものとなりました。近畿管内金融機関と協賛する。近畿経済産業局から、管内金融機関に広く参加を呼びかけることになりました。
さらに、取引先企業を念頭に置いた金融機関のみならず、自由な発想やアイデアの共有を行うため、近畿経済産業局、近畿財務局(ちほめん)とワークショップのメンバーとして参加することになりました。

企画のポイント
①管内金融機関を対象に、知的財産をテーマとしたワークショップを開催し、知的財産について考える機会を提供。
②ワークショップにはちほめんも参加し、自由な発想で知的財産を活用した新商品開発のアイデア出し等を実施。

金融監督業務



芦田事務官

次に、ちほめんである芦田事務官から金融機関の監督業務及び同業務と企業会計との関わりを財務の健全性などの観点から講義。

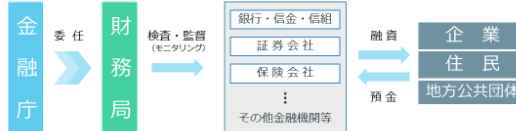
また、コロナ禍における事業者支援のあり方について、当局が金融機関にどのように要請しているかを丁寧に説明。

【金融監督業務とは】

金融監督の必要性・重要性、また、金融機関の種類や役割について説明。

1. 金融監督業務とは

- ▶ 金融庁は、国民が銀行・信用金庫・証券会社などの金融機関を安心して利用できるよう、検査・監督（モニタリング）を実施。
- ▶ 財務局は、財務省の地方出先機関であるが、金融庁から検査・監督に関する権限の一部委任を受け、各地域にある金融機関に対し、モニタリングを実施。



【金融監督と会計】

金融機関と一般事業会社の財務諸表を比較。特に貸倒引当金について、自己査定や債務者区分に触れた上で、重点的に説明。

2. 金融監督と会計

2-3 損益計算書

▶ 一般企業（製造業）

売上高	売上総利益
売上原価	
販売費および一般管理費	営業利益
営業外収益・営業外費用	経常利益
特別利益・特別損失	税引前当期純利益
法人税等	当期純利益

▶ 金融機関（銀行等）

経常収益	貸出金利差
有価証券利息配当金	
国債等債券売却損・株式等売却益	経常費用
経常費用	預金引当金繰入額
特別利益・特別損失	貸倒引当金繰入額
特別利益・特別損失	国債等債券売却損・株式等売却損
法人税等	税引前当期純利益
	当期純利益

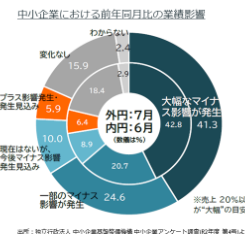
【金融監督と新型コロナウイルス】

コロナ禍において金融機関や金融行政に求められていることや、具体的な事業者支援策等について説明。

3. 金融監督と新型コロナウイルス

3-1 金融機関への要請

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、全国の中小企業の多くが売上を落としている。
- ▶ こうしたなか、金融庁は金融機関に対し、新型コロナウイルスの影響を受けた事業者の支援を強く要請している。
- ▶ 具体的には、事業者からの借入申込や、金利や返済期限に関する相談を受けた際には柔軟に対応するよう要請している。



国有財産の有効活用

井ノ本企画係長から国有財産の管理処分について、一般競争入札による売却手法だけでなく、**地域や社会のニーズに対応した有効活用**を推進していることを講義。

保育・介護施設用地としての有効活用や神戸港湾地域に所在する国有地の**まちづくり**に配慮した処分手続きを通じて、財務局が地域貢献のために重要な役割を担っていることを説明。

【保育施設用地としての有効活用】

待機児童の解消に向けて、国有地を保育施設用地として優先的に売却したり、定期借地制度を活用した貸付を実施。

「保育施設用地」として有効活用

▽待機児童解消加速化プランに基づき、保育施設用地として地方公共団体等に積極的に国有地の情報を提供

▽地方公共団体等に対して、優先的売却や定期借地制度を用いた国有地の貸付けを実施

▽その他、都市公園敷地として無償貸付中の公園、庁舎や宿舍の空きスペースを活用



【介護施設用地としての有効活用】

介護離職ゼロに向けて、介護施設用地として定期借地制度を活用した国有地の貸付けを実施。当初10年間は賃料を減額（8都府県）。

「介護施設用地」として有効活用

▽介護施設用地についても、地方公共団体等に対する優先売却や定期借地制度を用いた国有地の貸付けを実施

▽平成28年からは、「介護離職ゼロ」の実現に向けて、定期借地制度を用いた貸付けの場合、**当初10年間の賃料を5割減額**し、介護施設の整備を促進



【まちづくりに配慮した土地活用（神戸港湾）】

神戸港湾地域に所在する国有地を神戸市に都市開発事業用地として売却。

「まちづくりに配慮した土地活用（神戸港湾）」



講義のしめくくり

最後に、財務専門官の仕事は、**財政・金融・国有財産**など幅広く専門性が高いが、それらの業務のキーワードは「**地域貢献**」であり、また地方創生に向けた取組みは、若手職員が主体となり積極的に実施していることをしめくくりとし、学生の皆さんが地域に貢献する人材に成長して欲しいとエールを送った。

講義を終えて

学生にとって馴染みの薄い財務専門官の業務説明は、学生にうまく伝わるか心配であったが、「地域貢献」を軸に講義を展開することで、学生からの事後アンケートにおいて高い関心を示す意見が寄せられた。

学生の声

- ✓ 地方創生業務にとっても興味が湧きました。地域課題を学校などと協力して解決していると知って、もともと財務局と聞くと堅苦しいイメージだったが、とても親しみやすい機関だと思いました。
- ✓ 財政専門官が地方創生・地域貢献とつながりがあることを知らなかったため、意外と自分の生活にも関係しているのかなと思いました。財務専門官は自治体、金融機関、企業とのつながりがあり、その知識や関係性を地域貢献に活かしていることが分かりました。表に見える部分で活躍されているというよりは、裏側で関係者をつなぎ、課題解決に貢献する重要な役割を担っているということを知りました。
- ✓ 人々の生活に必要な不可欠な金融機関が健全であるかをチェックし監督する仕事は、とても貢献性が高く、様々な知識や能力が必要になると感じました。会計の知識だけでなく法律や経営の知識も必要になり、常に学ぶ姿勢がとても重要になると感じました。
- ✓ 銀行などのBSが、あ！そうか！と特徴的で面白かったです。また、PLについても、経常利益の項目が特徴的で感動しました。さらに、現在3回生ですが、貸倒引当金の設定についての内面を教わったことがなかったもので、貸倒引当金の設定額に至るまでのフローを知ることができたので、好奇心をそそられました。
- ✓ 国有財産の管理処分業務の事例をきいて、300人もの園児が入園できる保育施設や介護施設用地としての利用がされていると知り、国有財産の活用により、地域への貢献も行っているのだと知ることが出来ました。

兵庫県立大学との歩み

- 兵庫県立大学と神戸財務事務所は、平成24年の財政講演を皮切りに、長年にわたり連携し、地方創生に向けた取組みでは県内就職率向上に向けた企画などを実施してきたところ。
- 連携を更に深めるため、令和2年3月16日、兵庫県における地域経済・社会に貢献することを目的に、幅広い分野で協働の取組みを実施するため連携協定を締結し、本講義もその一環として実施。
- コロナ禍においても新たな企画を共に進めており、今後も連携をより一層深め、「地域のために何ができるか」を常に考え、行動に移し実践していく。

(番外編) ちほめんNEWS
～兵庫県立大学国際商経学部と連携協定を締結しました～

●概要●
兵庫県立大学国際商経学部と神戸財務事務所は、平成24年の財政講演を皮切りに、8年にわたり連携し、直近では財政講演・業務説明会（令和元年12月）、県内就職率向上に向けた企画（令和2年1・2月）等を実施したところですが、令和2年3月16日、兵庫県における地域経済・社会に貢献することを目的に、幅広い分野で協働の取組みを実施するため、連携協定を締結しました。
神戸財務事務所が大学法人と連携協定を締結するのは初めてです。

●協定の内容●
(1) 地域経済の活性化に関する事項
(2) 地域社会の発展に寄与できる人材の育成に関する事項
(3) その他協議により必要と認められる事項



兵庫県立大学国際商経学部と神戸財務事務所は、今後とも、地方創生に関する積極的な関与・協力を通じて、地域の発展に貢献してまいります。

地域活性化に関する御要望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。
近畿財務局神戸財務事務所総務課企画係
078-391-6941
chihomen-koubeg@kk.lfb-mof.go.jp
近畿財務局総務課企画係
06-6949-6390
ちほめんNEWSのバックナンバーは以下のURLからご覧いただけます。
<http://kinki.mof.go.jp/chiki.html>

※新型コロナウイルス感染症の国内感染拡大の状況を踏まえ、協定締結式は中止いたしました。

神戸財務事務所では、イベント企画などを通じて、地方創生・地域貢献に向けた取り組みを引き続き積極的に推進していきます。
今回、御協力頂いた皆様、どうもありがとうございました。

神戸財務事務所総務課企画係